オンラインデータベースを利用した学校ホームページ群の客観的評価

～ホームページ評価の課題と更新履歴情報による活性化度評価～

豊 福 晋 平[1]

【概要】学校教育機関のホームページはインターネットの普及に伴い年々増加傾向にあり、各種コンクール等の対象とされることも多くなった。しかしながら、日々の更新を前提とするホームページは絵画や作文等の作品と比較すると評価が難しいとされている。本研究は、学校教育機関ホームページの担う社会的意義にも鑑み、サイト運用実績を含んだオンライン動的コンテンツの客観的評価を目的とし、オンライン・データベース・システムの開発と、評価軸抽出のための検討を行うものである。

【キーワード】インターネット、学校ホームページ、コンテンツ評価、データベース、更新履歴

1. 課題

日本国内では 1994 年ごろから開設されはじめた学校教育機関ホームページは、インターネットの普及にあわせて年々増加傾向にあり、幼稚園から高等専門学校（K-12）で 2002 年 7月現在約 15000 件のページが運用されている。当初は先駆的実験として開設されるケースが多かったが、徐々に、学校からの有効な情報発信手段として認識され、学外の受験生に向けた PR や保護者向け情報を充実させたり、学校生活の様々なトピックを頻繁に更新したりするなど、一部では活発な利用展開が行われるようになった。

このような動向にあわせ、「わこうどホームページコンテスト[2]」、「School Homepage Grand prix[3]」、「メディアポスト[4]」など、学校ホームページがコンクール等評価の対象となるケースも増えてきた。

しかしながら、ホームページとは、そもそも日常的に利用するユーザーを対象として頻繁に情報更新されることに価値を置くメディアである。絵画や作文等ある時点の完成をもって出品される「作品」とはかなり趣が異なるため、ホームページの評価を試みる場合には次のような根本的課題が生じる。

1) ホームページは常に更新される可能性があるため、どの時点の状態をもって完成とするのか、サイト中のどの範囲を出展評価の対象とするのか厳密に決めがたい。
2) 作品としての完成（以後加筆修正を行わないこと）を強調し過ぎると、結果として運用中のホームページの継続的更新や改良を抑制するため、ホームページ運営者に対してマイナスの影響を与える。
3) ホームページでは内容に加え、来訪者数や内容更新頻度など運用実績もまた重要な評価基準となりうるが、従来の作品評価方法では完成物の内容のみを評価対象とせざるを得ない。

また、コンテストの選考過程自体の問題としては次の点が指摘できる。

4) コンテストの選考過程からフィードバックされる情報（講評）が乏しいため、将来的な内容・運用体制の改善に直接役立つアドバイスにはなりにくい。

2. 目的

これら課題を踏まえつつ、ホームページ運営者の活動を促進支援するための評価を行うとすれば、従来作品とは異なった枠組みが必要とされることは明らかである。本研究では、特に表面的な美しさや特徴的コンテンツだけでは測れない、ホームページ運営に必要とされる地道な更新作業や PR 活動の実績を積み上げ、これを成果・フィードバックとして表彰・情報提供するために、一定期間中のサイト運用実績（更新履歴）を収集し、その動向を把握することを目的としている。

3. 方法

目的のデータ収集をできるだけ正確に行うとともに、評価情報を各学校に提供するために、本研究では、学校教育機関ホームページ情報のデータベースをもとにシステム開発を行った。

筆者の運用する教育向けホームページサイト i-learn.jp(http://www.i-learn.jp/)では 1995 年 2 月開設[5]以来、おもに国内の幼稚園・保育園、学校、高等専門学校（K-12）のホームページ情報を収集掲載する『日本の学校」を設けており、様々な URL 情報がホームページ上から検索可能となっている。

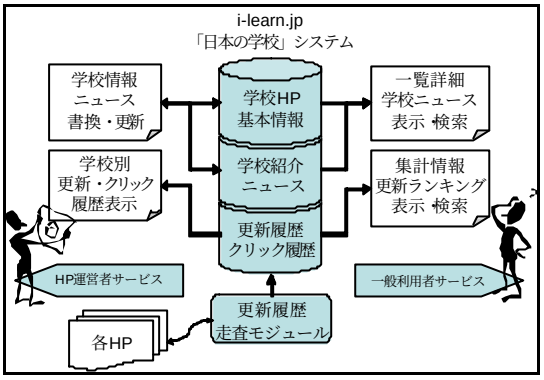

図 1 i-learn.jp「日本の学校」システムの概要

当初は検索・表示のみの単純なシステムであったが、1997 年からはホームページ運営者がオンラインで書込可能なフォームを加え、2000 年 8 月からは利用者が i-learn.jp から各学校へのリンクをクリックした履歴を収集するとともに、更新状況を走査するモジュールによって情報収集を行い、集計情報を表示するような拡張を徐々に行ってきた。

ホームページ更新履歴を走査するモジュールとは、毎日定時に起動し、全登録データの URL（トップページ）に対して通常のホームページブラウズと同様の方法でアクセスし、サーバから応答されるページの更新日時、ファイルサイズ、ステータス等を収集、データベースに自動登録するものである。これによって URL が移動消滅した場合でも発見が容易となり、維持管理の手間を省くためにも大きく貢献している。

4. 更新履歴からみる傾向

更新履歴は 2000 年 9 月より試験的な収集を開始し現在に至っている。以下にあげるのは、2002 年 7月を終点とした過去 1 年間の記録について集計したものである。

現在の学校登録数は 14976 件、過去 1年間の更新合計は 70045 回であった。平均 1校あたりの更新回数は 4.7 回となる。

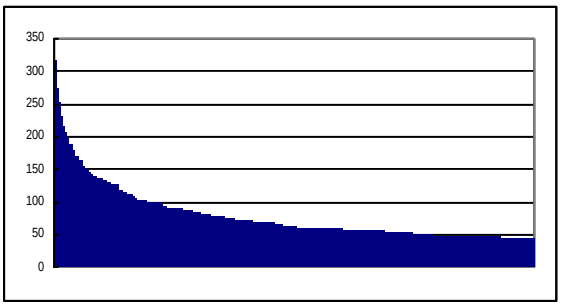

図 2 更新履歴 30%（265 校）の一年あたりの更新回数

ただし、更新回数については上位下位で著しい差が見られる。更新回数の上位 30%、学校数にして 265 校分についてグラフ化したものを図 2 に示す。1位は 315 回、30%の 265 位では 43 回（月平均 3.6 回）であった。約半数にあたる 7286 校は 1年間に一度も更新されていない。

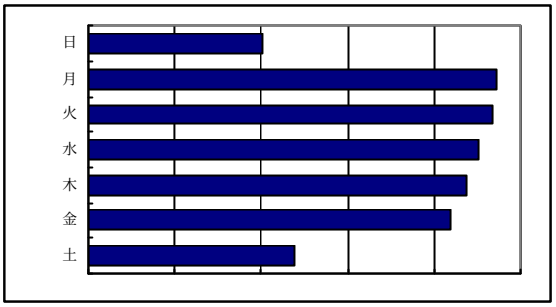

図 3 曜日ごとの更新回数

一方、図 3は更新履歴を曜日毎に集計したものである。これによるとウィークデ ィは月曜が最も多く、徐々に少なくなるが、土曜日曜でも相当数の更新があることから、勤務時間外にもホームページ運営者が更新作業を行っていることがうかがえる。

5. 課題

このような結果に基づけば、更新履歴の取得によってホームページの活性化状況が客観的に把握できるので、これら全体的傾向と各ホームページの実績集計をあわせて運営者にフィードバックすることは、維持管理の見通しを得る上でも十分に意義あることと思われる。

ただし、更新履歴情報の取得には技術的問題があり[6]、完全なデータを収集するのはまだ難しい。このため、更 新履歴単独で評価するのではなく、複眼的なパラメータの設定を行うとともに、ホームページ運営者側からの参加評価も含めた総合的な検討を今後行う必要がある。

---

[1] TOYOFUKU, Shimpei : 国際大学グローバル・コミュニケーション・センター e-mail: toyofuku@glocom.ac.jp

[2] 「わこうどホームページコンテスト」, 富山県総合情報センター, http://www.toyama-tic.co.jp/

[3] 「ぽそまる 2001 School Homepage Grand prix」, 日経新聞社,http://netnavi.nikkeibp.co.jp/SHG3rd/

[4] 「maxell KIDS わんだーらいぶらりー」,メディアポスト2002、http://www.maxell-kids.com/

[5] 1995 年から2002 年 2 月までは国際大学 GLOCOM「キッズページ」http://kids.glocom.ac.jp/として運用

[6] サーバ日時が正しくない場合、あるいはサーバによって毎日強制的に書き換えを行うページ、フレームが設定されたページでは正確な更新履歴が取得できない。